

4代目宮城県行政庁舎の 落成とともに迎えた平成新時代



平成元年5月、4代目となる現在の宮城県行政庁舎が落成し始まった平成新時代。

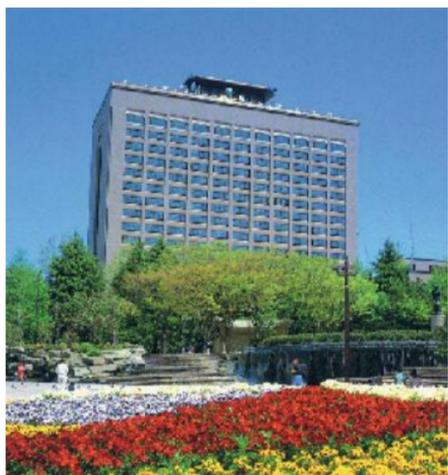
七ヶ宿ダムを水源とし、仙南及び仙塩地域の17市町への水道用水の供給が開始されたほか、宮床ダム建設事業など一層の県土発展に向けた多くの大規模プロジェクトが推進されました。

[平成①] 平成元年—9年
(1989) (1997)

昭和			平成			令和
①	②	③	①	②	③	

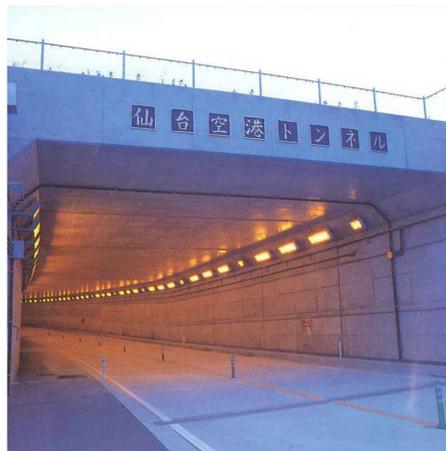
4代目庁舎完成 平成元年(1989)

雨水利用システムやソーラーシステムなどの自動監視制御により、省資源・省エネルギーに対応しています。地方自治体では初めて本格的なLANを取り入れたインテリジェントビルです。



仙台空港トンネル開通 平成3年(1991)

空港滑走路の延長に伴い分断される県道塩釜巨理線の付替え道路として、空港用地内を横断する延長517mの地下トンネルです。前後の掘割擁壁部を含め、事業費約40億円で1991年に完成しました。



秋山沢川災害復旧及び災害関連緊急砂防事業完成 平成4年(1992)

平成元年8月の台風13号により、県南部の山沿いで記録的な大雨を観測。河岸の欠壊など甚大な被害を受けたことから、一定災及び上流区間の関連緊急砂防事業の採択を受け改良復旧しました。

低気圧による集中豪雨災害(9.22豪雨) 平成6年(1994)

仙台空港で総雨量515mm、樽水ダムにおいても約180年に一度というダム計画を越える総雨量を記録するなど、仙台都市圏の東部低平地に甚大な被害をもたらし、公共土木施設などへの被害は約246億円に上りました。

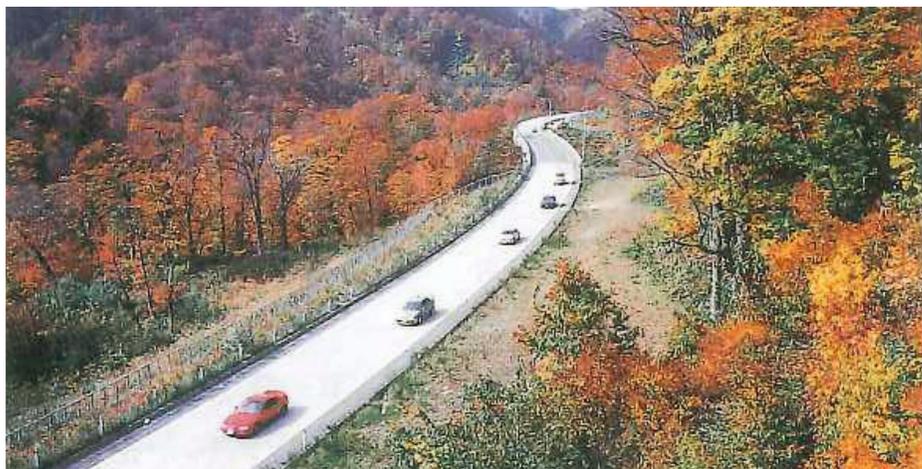


槻木大橋開通 平成7年(1995)

柴田町と角田市の阿武隈川に架かる橋長777.77mの桁橋。住民生活の利便性が図られ、阿武隈川兩岸の市町を結ぶ新しい交通路線が確保されました。

[平成①] 平成元年—9年

平成元年	5月	4代目庁舎完成
2年	4月	仙南・仙塩広域水道給水開始
2年	4月	仙台空港国際定期便就航
3年	5月	仙台空港トンネル開通
4年	3月	秋山沢川災害復旧及び災害関連緊急砂防事業完成
6年	9月	低気圧による集中豪雨災害(9.22豪雨)
7年	7月	槻木大橋開通
7年	11月	宮城県総合運動公園開園
8年	8月	国道108号 鬼首道路開通
9年	3月	宮床ダム完成



国道108号 鬼首道路開通 平成8年(1996)

宮城県と秋田県を結ぶ鬼首峠の道幅が狭く大型車通行できず、冬は豪雪のため通行止めになっていたため、宮城県大崎市と秋田県湯沢市を結ぶバイパス道路として建設されました。



宮床ダム完成 平成9年(1997)

8.5豪雨などで甚大な被害を受けた吉田川流域の治水安全度の向上と都市用水及び灌漑用水を確保するために計画された多目的ダムとして建設されました。